

水と生きる バラとダムの町

黒いバラで知られるトルコの小さな町、ハルフェティ。

南東アナトリア地方で初めてチッタスローに登録されたこの場所に、今、旅行者が足を運んでいる。

街並みには古代ローマの影響が色濃く残り、歴史的背景もユニークだ。

南東アナトリア地方シャンルウルフア県の西部に位置する小さな町、ハルフェティ（Halfeti）。トルコには15のチッタスロー登録都市が各地に点在するが、2013年に南東アナトリア地方で初めて登録されたことで注目を集めている。

トルコ南東部最大の都市、ガーズィアンテップがアクセスポイントのひとつ。この町はシリアとの国境に近く、ユーフラテス川沿いに開かれている。トルコの

東部を源流とするユーフラテス川は、シリア、イラクへと流れ、ティグリス川と合流してペルシャ湾に注ぐ全長約2800kmの大河。下流域はかつて世界最古の文明が発達したメソポタミアとして知られている。

そのユーフラテス川の上流域に位置するハルフェティの起源は、アッシリア人が定住していた紀元前までさかのぼる。以降、ローマ、セルジューク、オスマンと

それぞれの時代の影響を受けて変化してきたが、なかでもローマ時代の影響が色濃く残っているのがこの町の特徴となっている。

南東アナトリア地方の気候は地中海性で、雄大な川が大地を貫いているが、大地は乾燥しており、緑は少ない。季節は大きく雨季と乾季に分かれ、乾季になるとほとんど雨が降らないため、1年を通して水を確保することが大きな

課題となっていた。そこで、トルコ政府はダムや発電所を建設し、電力による農業発展を目的とする南東アナトリア・プロジェクトを1980年代から推進。その一環として、2000年にユーフラテス川にビレジック・ダムを完成させた。

しかし、ダムの完成により、ハルフェティは町の半分が水没する事態となり、住民はやむなく新しいエリアに移り住んだ。現在のハルフェティは新市街で、水没したエリアは旧市街（エスキ・ハルフェティ）となっている。

エスキ・ハルフェティは当時の姿のままダム下に眠っている。その美しい風景に想いをはせる旅行者向けのボートツアーが催行されている。岸にはかつて人々が暮らしていた家々が現存し、その歴史的価値を訴えているかのようなたたずまいだ。ダムに沈んだ町を象徴するのが湖面から半分突き出たモスクのミナレット（尖塔）。実際は見れないが、水面下にはミナレットの母体であるドームをはじめ、歴史的建造物もあるという。この神秘的で美しい光景は、ダム湖に

架かる約135mの吊り橋から見ることもできる。

歴史受け継ぐ石の家

ハルフェティの町の基礎はローマ人によって築かれ、その歴史は建築物に刻まれている。かつて人々が暮らしていたという洞窟のほか、石造りの家が有名。採石場から切り出した石を材料とし、2階建てで庭とテラスがあるスタイルを継承している。ユーフラテス川と平行に家を建てることでテラスから外の風景を眺めることができるうえ、何より川沿いの景観に溶け込むように造られているのが特徴だ。

また、エスキ・ハルフェティの船着き場には、川沿いにレストランが並んでいるのでぜひ立ち寄りたい。肉料理が多いトルコ内陸部にあって、ここでは川魚の料理も味わえる。例えば、焼きナスを添えたケバブやカマスに似たシャブットという魚の素揚げ料理などがお勧め。この辺りは野生のビスタチオの産地でもある。ペースト状にして香りを楽しむメネギッチ・コーヒーとして味わうこともできる。そのほか、ブドウやオリーブ、バナナ、グレープフルーツ、レンズ豆などの野菜や果物の生産も盛ん。こうした農業が発展しているのは、ダムのおかげともいえる。

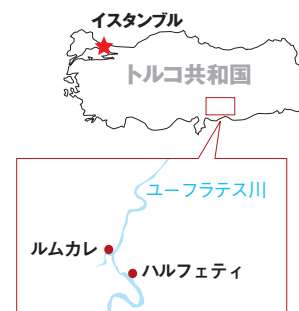
ハルフェティの北に位置するルムカレ（Rumkale）も、歴史の面影を色濃く残すエリア。ローマ帝国時代に聖ヨハネが住んだといういわれがあり、キリスト教徒の聖地の一つとなっている。ハルフェティからはボートでアクセスすることができる。

絶滅から復活した黒いバラ

チッタスローに登録される前からハルフェティの名を世間に知らしめたものに、ブラックローズがある。「アラブの花嫁」や「アラブの美人」と称されるバラは、実際には赤みがかった黒で、漆黒というわけではない。しかし、この地域だけに生息する珍しい花として、知る人ぞ知るバラとなっている。

ルーツはフランスから持ち込まれた「ルイ14世」という話もあり、これがハルフェティの土とユーフラテス川独自の水素イオンによって変色したといわれている。春に赤いつぼみをつけ、夏が近づくにつれて黒みがかったいくのが特徴だ。

ハルフェティの名産品だったが、ダムの完成により町が水没すると、ブラックローズも絶滅の危機にさらされた。人々が移り住んだ新市街では微妙に土壌が変わったため、当初は同じ花を咲かせることができなかったという。しかし、元の環境に似せた温室で栽培することで、現在は新市街でも栽培に成功。春から夏にかけてハルフェティを訪れる人々に、その優雅で神秘的な姿を披露している。



チッタスロー（cittaslow）「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。

Halfeti

ハルフェティ



湖面から半分突き出ているモスクのミナレット



- 1 ユーフラテス川では、ウィンドサーフィンなども楽しめる
- 2 農業が盛んなため、さまざまな料理に野菜が添えられている
- 3 キリスト教徒の聖地の一つとなっているルムカレ
- 4 エスキ・ハルフェティの旅行者向けボートツアー